

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 52

学校名・団体名	静岡市立番町小学校（通級指導教室）
HPアドレス	http://www.bancho-e.shizuoka.ednet.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域と学校を紡ぐ、センター型通級指導教室の新たな展開と工夫
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本教室は、静岡市葵区全域の小学校38校（児童数約12000人）を対象とするセンター型の通級指導教室である。通級児童数の増加及び支援ニーズの多様化に対し、柔軟かつ効果的な新しい指導が求められている。</p> <p>ただ、ニーズに対応する研修カリキュラムは、依然として未整備の部分が多く、技術の向上には、遠隔地の技術講習会参加が必要となるなど、教材調達・研修費用とも、教諭個人の努力に頼っているのが現状である。</p> <p>そこで、本研究においては、8人の教諭が職員室を形成するセンター的通級の環境と支援機関が隣接する教室立地を、利点としてとらえ直し、各課題の克服と自校小学校支援および近隣通級指導教室支援を念頭に置き、取り組みを開始した。</p>	

<活動・研究報告>

1 研究推進の主な方策

- センター型通級指導教室の利点と課題をあらためて検証し、特長を長所に変える通級指導のあり方を追求する。
- 本教室立地の特性を生かし、番町小学校と共に周辺を巻き込んだスクールクラスターを整備する。
- 各校からの児童の教室受け入れ要請に、真摯に対応できる、専門性の向上と教室・教材環境整備を推進する。

2 研究経過と4つのステージの関連・段階的な指導の具体

	取り組みの具体
第1ステージ： 4・5月	・独自の初任者支援プログラムの立案と試行および各校との支援ネット構築（訪問・ケース会等） ・番町小本校・各通級指導教室他各機関との関係構築と協働
第2ステージ： 6～9月	・保護者の願い・児童の支援ニーズを受け止め、通級型支援計画に反映。 ・市内・外の専門家研修による、効果的な支援策の導入と検証。
第3ステージ： 10～12月	・常時保護者が付き添う形態を活かし、教育相談による支援効果確認と推進。 ・区内各小学校への巡回（サテライト）と広報誌による、支援策・合理的配慮の具体提示
第4ステージ： 1～3月	・本年度における支援策をまとめ、検証を行う。 ・専門家のアドバイスを受け、指導効果の検証と見立て・技能向上研修の継続実施。 ・来年度へのより有効な支援策を提案する。

3 成果

○番町小通級独自の初任研の実施

県下では、1人職の通級指導教室が過半数であるが、本校には8人の職員が在籍し、小規模ながらも職員室を形成している。この形態を、OJT（現任訓練）を通じ積極的に活用することで、通級指導が初めての教諭であっても安心して指導技術を学べることを確認できた。また、それぞれの教諭が積み上げてきた教育技術や経験を、通級指導の場で活用する方策も学べ、研修時間の短縮につながった。さらに本年度は、教務の発案により、近隣教室教諭（1人職）が本校独自の初任研修に参加した。小規模な通級指導教室を支えることは、これからのセンター型教室が、果たすべき役割である。

○立地を活かした他機関との連携構築（通級指導におけるスクールクラスターの構築）

本教室は、葵区全域からの通級を確保するため、市中心部に設立されている。このことは、医療・福祉・教育等各専門機関との距離が近いということでもある。そこで、従来からの連携に加え、市民活動センター（NPO）、静岡大学、県立大学、市教育センター、および静岡市教師塾に職員が出向き、通級との連携策や支援教育、タイマーなどの教材使用の具体について講習を行った。また、医療の場での経験豊富な言語聴覚士には、個々の職員に対しての見立てや指導の組み立てについての技術を教えていただいた。これらの活動で得られた、有形無形の支援情報は職員間で共有され、本教室および番町小学校や各校通常学級支援へと還元することができた。

○主体的に関わる、開かれた通級指導教室へ

通常級教諭は、児童35人当たり1人以上確保されている。しかし、地区児童12000人中の様々な状況に8人の通級職員で対応するためには、個々の指導技術の向上と教諭を支える支援情報の蓄積が欠かせない。特に、有効な支援策の研修は市内では履修できない事が多く、各職員は、多様化する児童の支援ニーズに合わせ、各地に赴き資料をあたり、あらためて指導策の見直しを進めてきた。その結果、指導技術の向上と共に、教室内に市内随一の支援資料・図書室ともいえるだけの教材を集積することができた。

これら教材の一番のメリットは、必要とする者が、実際に手にとり、すぐに活用できることである。そこで、本年度は、教材集積の情報を、番町小をはじめ教室を訪れた市内の教諭に公開し、担当のアドバイスと合わせ提供してきた。また、通級指導で得られた知見に、通常学級担任の視点を加え、「学級でできる支援は？」との問いに答えるべく、広報誌として地区の全小学校に配布している。

今後も、より開かれた通級指導教室として、担当するすべての通常学級に関わり、支える努力を継続していく。